

令和4年度 第5回・第6回
「知る、分かる、考える、統合型リゾート（IR）セミナー」
質疑応答要旨

（質問者1）

万博が終わってからIRが開業するが、IRが万博で働いていた方々の受皿になるのか。

（回答者：職員）

万博の開催期間は、2025年10月までであり、一方、IR施設の開業時期は2029年秋～冬頃をめざしており、一定の期間があいているため、万博で従事されていた方が、直接、IR施設で従事することは想定していないと考える。

（質問者2）

関西空港の旅客ターミナルの再整備は、IRとは関係ないのでやめるべき。

（回答者：職員）

関西国際空港におけるポートターミナルの再整備はIR事業者が行うものである。夢洲への海上アクセスは、道路・鉄道等の陸上アクセスに加え、関西空港や神戸空港、さらには西日本を結ぶ集客機能として活用していくものであり、利便性だけではなく、海から観光しながらIRに行くなど、事業者が海外のIR等での知見を活かし、様々なアクセスを確保していくという観点から計画に記載している。

（質問者3）

質の高い雇用機会の提供と関西の人材基盤の強化について、「高度なグローバル人材の育成（教育機関と連携した人材育成プログラムの提供、継続的な職業訓練 等）」という記載があるが、いつ頃から、誰が実施するのか、また職業訓練する職種は具体的には何か。

（回答者：職員）

今後、区域認定が得られ、実施協定の締結以降、IR事業者において、教育機関等と連携した人材育成プログラムの提供等により、サービス産業の高度化に資する高度なグローバル人材の育成に取り組み、大阪・関西の人材基盤の拡大・強化を図っていく。

（質問者4）

防災について、IRでは来場者や働く方など多くの人がいることになるが、例えば、大地震や津波などを想定した避難計画等はどうなるのか。

（回答者：職員）

津波に関しては、IR区域の現状の地盤の高さは、O.P.+11mを確保している状況であり、地盤沈下を見込んだ50年後でも、地盤の高さはO.P.+9m程度であると想定しており、津波や高潮の想定の高さに対して、十分な地盤の高さを確保している。

また、夢洲へのアクセスとなる咲洲トンネルや夢舞大橋については、南海トラフの巨大地震に対する耐震性を確保しており、鉄道や道路といった機能が分断されることはないと考えている。

I R事業者においても、3日間インフラ機能を維持するための自立電源の確保、災害発生から3日間以上安全に過ごすための備蓄品の保管などに取り組むこととしており、夢洲における安心・安全な国際観光拠点の実現に向けて、必要かつ十分な防災対策を実施していく。